

# 小型マグロ延縄漁業経営調査

七條裕蔵

## 1. 目的

本県最大の基幹漁業である小型マグロ延縄漁業の経営実態、操業実態、問題点等を明らかにし、同漁業の経営改善検討に資する。

## 2. 材料及び方法

今回の調査は、沖縄県漁連、沖縄県近海鮪漁業協同組合、那覇地区漁協、八重山漁業協同組合から提供された資料と、第1種小型マグロ延縄漁船（10t以上で200海里内外で操業する大臣承認船）が提出する「かつお・まぐろ漁業漁獲成績報告書」を基に集計、分析した。

## 3. 結果及び考察

表1に県内で操業する17～18tクラス（3経営体）と、同じく県内操業船19tクラス（5経営体）、また海外基地で操業する19tクラス（6経営体）の平成9年1月～12月までの経営状況（1漁家平均値）を示した。

水揚量は海外基地操業が87tと最も少ないが、漁獲物の単価が高いため水揚額は8,796万円と最も高い。しかしながら海外基地操業では航空賃、現地費用等の販売経費が水揚額に対し、46%にも要することから、漁業部門の差引所得は333万円（総水揚額に対し3.8%）にしかない。

逆に県内操業船17～18tクラスは、水揚額は49,040万円と最も低いが、県内操業船19tクラスに比べ販売経費、燃料費、乗組員給料、減価償却費等が少額であることから、漁業部門の差引利益は415万円（水揚額に対し8.5%）となり、表に示した3操業形態のうちで最も高い。

表2には八重山漁協所属船の平成10年1月～12月の間の水揚状況を示した。

9隻の水揚平均は58t、3,784万円である。調査対象年が異なることと、収支状況が不明であること等から表1との比較は困難であるが、10t未満船の燃

料費、減価償却費、乗組員給料等は17tクラスよりさらに節減されることが予想されることから、これら10t未満の漁船が最も高い経営効率、差引利益をあげている可能性がある。

何れにしても「大きい漁船ほど高利益をあげる」ということは言えないであろう。

表3は「漁獲成績報告書」を基に作成した第1種小型マグロ延縄漁船の操業状況である。平成10年1月～12月入港分、計80隻について入港基地別に集計した。「漁獲成績報告書」は200海里内外を問わず、全操業について提出義務があるが、漁船により報告されていない操業分がかなりあると思われるので、1隻あたりの年間平均水揚高等については、検討できない。

各操業形態（入港地別）とも、1回の航海日数平均は22日、操業日数は15日程であった。乗組員数は19t未満で4名～5名、19t以上では6名～7名の船が多かった。入港地別では県内水揚船に19t未満が多く含まれていることから、5.5人と最も少ない。

操業1日（回）あたりの平均漁獲高は、海外水揚船が0.5t、45万円、平均単価は（895円/kg）、県内水揚船が0.8t、42万円、平均単価は（518円/kg）、本土水揚船が0.8t、38万円、平均単価は（444円/kg）であった。

海外基地の漁獲物単価が高いのは、国内水揚船に比べ、魚価の高いメバチ、キハダの漁獲物組成比が高く、反対に価格の低いビンナガの組成比が低いことによる。

図1～3に「漁獲成績報告書」から得られた操業位置と各魚種の漁獲状況を示す。

また表4は県漁連、那覇地区漁協市場におけるマグロ類各魚種別の取扱い状況を示した。ビンナガの占める割合は年々増加しており、平成3年に重量組成比で14.3%、金額組成比で9.9%に過ぎなかったものが、平成8年にはそれぞれ46.5%、24.5%にも

表1 マグロ延縄船の経営状況(平成9年1月~12月)

操業形態・サンプル船数		県内操業17t~18t(n=3)		県内操業19t(n=5)		海外基地操業19t(n=6)		
区分	収支項目	水揚額 (1隻平均)	水揚額に 占める割合	水揚額 (1隻平均)	水揚額に 占める割合	水揚額 (1隻平均)	水揚額に 占める割合	
漁業部門	収入	水揚額計	49,040	—	69,675	—	87,965	—
	支出	販売経費等	4,938	10.1%	10,951	15.7%	40,519	46.1%
		燃料費	4,856	9.9%	7,717	11.1%	6,413	7.3%
		餌料費	5,397	11.0%	8,330	12.0%	8,699	9.9%
		漁具費	3,613	7.4%	4,304	6.2%	3,829	4.4%
		食糧費	3,294	6.7%	3,359	4.8%	4,298	4.9%
		消耗品費	502	1.0%	363	0.5%	1,944	2.2%
		乗組員給料	13,489	27.5%	18,520	26.6%	7,386	8.4%
		乗組員保険料	804	1.6%	2,077	3.0%	223	0.3%
		修理費	3,141	6.4%	3,055	4.4%	2,343	2.7%
		漁船保険料	1,110	2.3%	1,368	2.0%	1,024	1.2%
		営業費	1,350	2.8%	1,285	1.8%	4,187	4.8%
		減価償却費	1,920	3.9%	4,609	6.6%	4,049	4.6%
		その他	470	1.0%	814	1.2%	1,069	1.2%
	支出計	44,882	91.5%	65,831	94.5%	84,631	96.2%	
	差引利益(d)	4,158	8.5%	3,843	5.5%	3,334	3.8%	
その他	収入	漁業見舞金	1,079	—	1,609	—	1,365	—
		その他の収入	3,520	—	2,925	—	360	—
		収入計	3,425	—	4,534	—	1,485	—
		差引利益(f)	3,425	—	4,534	—	1,485	—
	所得(d+f=g)	7,583	—	8,377	—	4,819	—	
	家計費・税金	3,995	—	4,306	—	3,474	—	
	経済余剰(g-h=i)	3,588	—	4,072	—	1,345	—	
備考	航海数	15	—	9	—	16	—	
	乗組員数	4	—	6	—	6	—	
	水揚量	97	—	97	—	87	—	

表2 八重山地区における小型まぐろ延縄漁船(10t未満)の水揚状況(平成10年1月~12月)

区分	項目	魚種						総計
		キハダ	ビンナガ	メバチ	クロマグロ	クロカワカジキ	その他	
5t未満 (n=3)	漁獲量(t)	9.0	22.7	6.2	3.3	2.0	3.6	46.8
	同組成比	19.2%	48.4%	13.3%	7.1%	4.2%	7.8%	100.0%
	水揚額(千円)	10,823	6,764	6,394	6,281	1,106	1,171	32,540
	同組成比	33.3%	20.8%	19.7%	19.3%	3.4%	3.6%	100.0%
	魚種別単価(円/kg)	1,206	298	1,027	1,882	562	321	695
5~10t未満 (n=6)	漁獲量(t)	11.3	35.0	7.8	2.7	2.9	3.9	63.6
	同組成比	17.8%	55.1%	12.3%	4.2%	4.6%	6.1%	100.0%
	水揚額(千円)	13,366	10,837	7,944	4,729	1,825	1,792	40,493
	同組成比	33.0%	26.8%	19.6%	11.7%	4.5%	4.4%	100.0%
総計	漁獲量(t)	10.5	30.9	7.3	2.9	2.6	3.8	58.0
	同組成比	18.2%	53.3%	12.6%	5.0%	4.5%	6.6%	100.0%
	水揚額(千円)	12,518	9,480	7,427	5,246	1,585	1,585	37,842
	魚種別単価(円/kg)	1,181	309	1,015	1,782	628	461	636
	同組成比	33.1%	25.1%	19.6%	13.9%	4.2%	4.2%	100.0%



表4 那覇地区漁協、県漁連市場におけるマグロ類取扱高の推移

年	魚種	キ		ハ		ダ		メ		バ		チ		ン		ガ		ク				マ		グ		ロ		類		計				
		量(t)	組成比	金額(千円)	組成比	量(t)	組成比	金額(千円)	組成比	量(t)	組成比	金額(千円)	組成比	量(t)	組成比	金額(千円)	組成比	量(t)	組成比	金額(千円)	組成比	量(t)	組成比	金額(千円)	組成比	量(t)	組成比	金額(千円)	組成比	量(t)	組成比	金額(千円)	組成比	
H3	那覇地区	180	40.1%	147,623	45.3%	57	12.6%	66,297	20.3%	88	19.6%	42,067	12.9%	0	0.0%	0	0.0%	124	27.7%	70,207	21.5%	449	326,194											
	県漁連	1,534	43.5%	1,196,619	49.7%	749	20.4%	575,641	23.9%	500	13.6%	229,425	9.5%	3	0.1%	1,670	0.1%	823	22.4%	405,470	16.8%	3,668	2,408,825											
	計	1,774	43.1%	1,344,242	49.1%	805	19.6%	641,938	23.5%	588	14.3%	271,493	9.9%	3	0.1%	1,670	0.1%	947	23.0%	475,677	17.4%	4,117	2,735,019											
H4	那覇地区	659	41.4%	536,870	49.1%	327	20.5%	278,471	25.5%	286	18.0%	125,600	11.5%	2	0.2%	4,986	0.5%	317	19.9%	146,966	13.4%	1,591	1,092,892											
	県漁連	1,569	39.4%	1,098,983	45.0%	888	22.3%	693,869	28.4%	592	14.9%	251,047	10.3%	3	0.1%	2,730	0.1%	931	23.4%	394,122	16.1%	3,984	2,440,752											
	計	2,229	40.0%	1,635,853	46.3%	1,215	21.8%	972,339	27.5%	878	15.8%	376,647	10.7%	5	0.1%	7,717	0.2%	1,248	22.4%	541,088	15.3%	5,575	3,533,644											
H5	那覇地区	685	38.4%	634,099	53.6%	245	13.8%	227,842	19.2%	538	30.2%	181,704	15.3%	4	0.2%	5,358	0.5%	312	17.5%	134,867	11.4%	1,784	1,183,871											
	県漁連	1,446	35.1%	1,199,504	49.7%	598	14.5%	480,826	19.9%	1,247	30.3%	392,638	16.3%	7	0.2%	7,277	0.3%	824	20.0%	331,413	13.7%	4,122	2,411,658											
	計	2,131	36.1%	1,833,604	51.0%	843	14.3%	708,668	19.7%	1,785	30.2%	574,342	16.0%	11	0.2%	12,635	0.4%	1,135	19.2%	466,280	13.0%	5,906	3,595,529											
H6	那覇地区	492	27.5%	459,571	41.0%	255	14.3%	229,564	20.5%	760	42.5%	280,405	23.2%	15	0.8%	23,259	2.1%	268	15.0%	147,260	13.1%	1,790	1,120,060											
	県漁連	1,047	25.5%	908,756	38.3%	663	16.1%	529,186	22.3%	1,731	42.1%	550,974	23.2%	21	0.5%	24,517	1.0%	648	15.8%	357,401	15.1%	4,110	2,370,833											
	計	1,539	26.1%	1,368,327	39.2%	918	15.6%	758,750	21.7%	2,491	42.2%	811,379	23.2%	36	0.6%	47,777	1.4%	915	15.5%	504,661	14.5%	5,900	3,490,893											
H7	那覇地区	422	23.0%	359,396	37.2%	347	18.9%	285,273	29.6%	843	45.8%	223,950	23.2%	8	0.5%	8,503	0.9%	219	11.9%	88,200	9.1%	1,840	965,321											
	県漁連	1,047	23.0%	812,906	36.1%	985	21.6%	689,448	30.6%	1,911	42.0%	498,537	22.2%	19	0.4%	15,888	0.7%	594	13.0%	233,619	10.4%	4,556	2,250,399											
	計	1,469	23.0%	1,172,302	36.5%	1,332	20.8%	974,721	30.3%	2,754	43.1%	722,487	22.5%	28	0.4%	24,390	0.8%	814	12.7%	321,820	10.0%	6,396	3,215,719											
H8	那覇地区	483	22.8%	435,394	37.9%	269	12.7%	241,689	21.1%	1,074	50.8%	306,533	26.7%	29	1.4%	25,049	2.2%	258	12.2%	138,909	12.1%	2,113	1,147,574											
	県漁連	1,053	21.8%	838,790	34.4%	844	17.5%	651,806	26.7%	2,154	44.6%	571,115	23.4%	43	0.9%	35,071	1.4%	735	15.2%	340,699	14.0%	4,829	2,437,481											
	計	1,536	22.1%	1,274,184	35.5%	1,113	15.0%	893,495	24.9%	3,228	46.5%	877,648	24.5%	72	1.0%	60,121	1.7%	993	14.3%	479,607	13.4%	6,942	3,585,055											

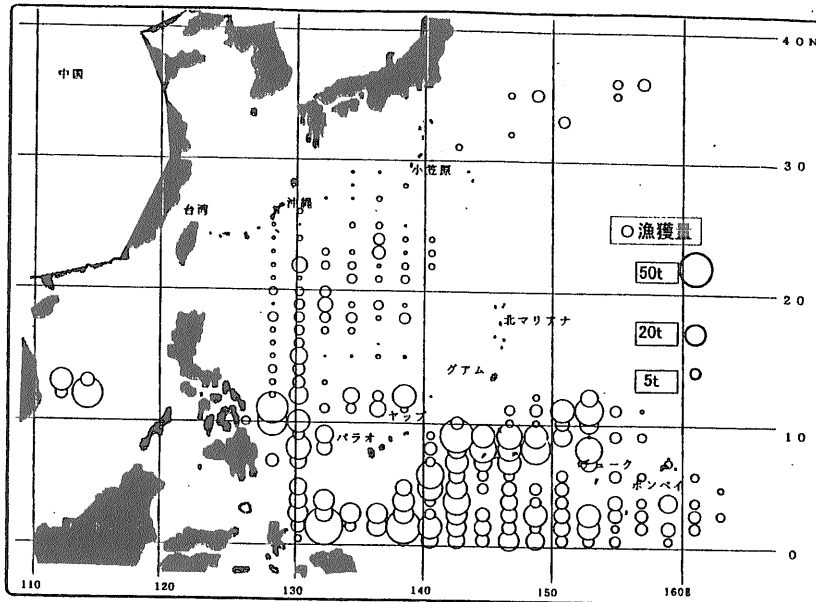


図1 沖縄県第1種小型まぐろ延縄船のメバチ漁獲状況(平成10年)

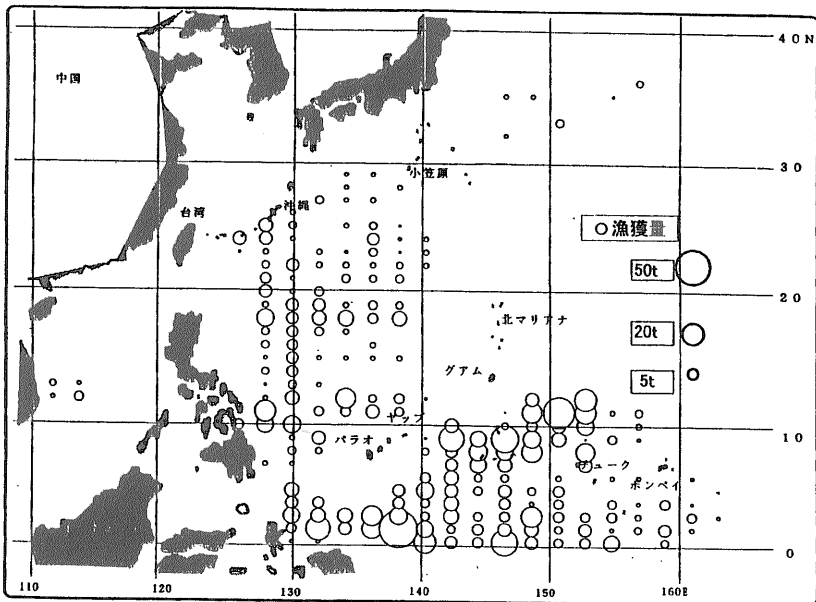


図2 沖縄県第1種小型まぐろ延縄船のキハダ漁獲状況(平成10年)

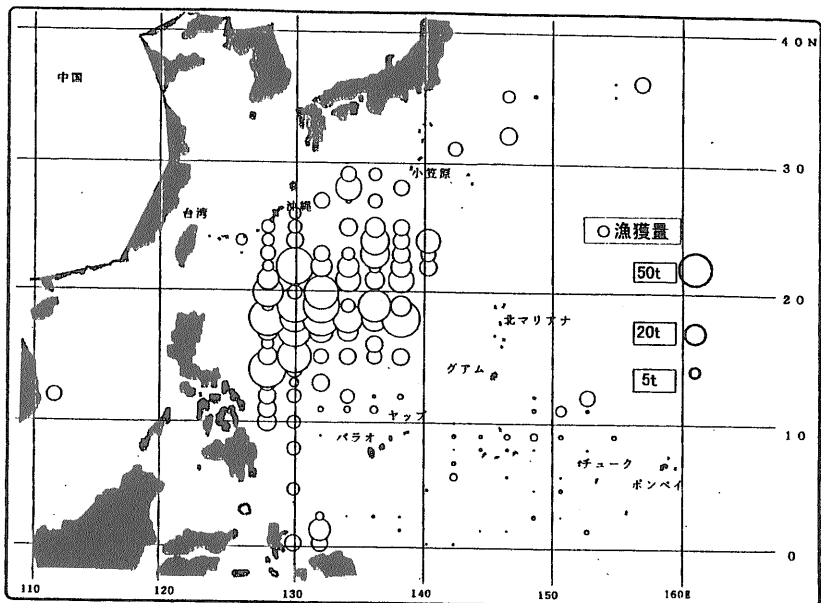


図3 沖縄県第1種小型まぐろ延縄船のピンナガ漁獲状況(平成10年)

達している。

表1で示したように、マグロ延縄船（17 t以上）の経費率は90%以上で、極めて厳しい状況である。

特に海外基地操業船の経費率は94%にもなることから、魚価の数%の下落で多くの漁家が赤字経営に陥ることが予想される。鮮度保持技術の向上等により価格の維持向上に努めるとともに、経費を数%でも節減することが求められるだろう。

国内操業船についてもこのような努力が求められるが、最大の問題はビンナガの総漁獲量に占める割合の増大がいつまで続くのかということである。

ビンナガは、世界的な缶詰業界の需要量動向、ひいては為替相場の変動に単価が大きく影響を受けるため、総合的な価格安定向上対策が必要である。

#### 文 献

- 1) 沖縄県、(社)沿岸漁業振興開発協会（1998）：亜熱帯水産物の特産物化基礎調査委託事業報告書